

## ◆ 個別目標に対する評価

### ■ 進捗状況

**A**: 目標（値）を達成 **B**: 目標（値）未達だが、現状（値）より改善・横ばい **C**: 目標（値）未達で、現状（値）より低下

### ■ 評価・課題

重点	指標項目	現状（値） ※計画策定時	計画目標（値）	R5目標（値）	R5実績（値）	達成状況
①	高等学校等における予防啓発授業等の実施率	-	R7まで毎年度100%	50% （※下半期分）	100%	A ➡
	教員向け研修会の参加者数	Web133名 （※参考値）	R7まで毎年度100名以上	100名	257名 （2月末時点）	A ➡
②	依存症総合ポータルサイトのアクセス数	5,606件	R7まで毎年度20,000件以上	10,000件 （※下半期分）	約11,000件 （3月末見込み）	A ➡
	府民セミナー・シンポジウムの参加者数	473名	R7まで毎年度2,000名以上	2,000名以上	約1,950名 （3月末見込み）	B ➡
③	相談拠点及び「依存症ほっとライン（SNS相談）」の相談数	3,244件	R7末まで1.5倍	3,245件以上	約4,600件 （3月末見込み）	A ➡
④	ギャンブル等依存症を診ることができる精神科医療機関数	25機関	R7末まで60機関	26機関以上	29機関	A ➡
⑤	相談拠点の相談者数に占める自助グループ・民間団体等への紹介率	25%	R7末まで50%程度	26%以上	54% （12月末時点）	A ➡
⑥	補助金・基金を利用したギャンブル等依存症の本人及びその家族等の支援にあたる自助グループ・民間団体数	4団体	R7末まで増加	5団体以上	6団体	A ➡
	相談拠点が実施する研修・普及啓発事業に占める、自助グループ・民間団体等と連携して取り組んだ事業の割合	33%	R7末まで50%程度	34%以上	52% （12月末時点）	A ➡
⑦	ワンストップ支援を提供できる機能を整備	-	IR開業まで整備完了	機能検討会議1回以上	2回	A ➡
⑧	ギャンブル等依存症に関する実態調査の実施回数（※）	1回	R7まで毎年度1回	1回	1回	A ➡
⑨	関係機関職員専門研修により養成した相談員数	461人	R7まで毎年度500人以上	500人以上	約670人 （3月末見込み）	A ➡

● 指標12項目すべてにおいて、概ね令和5年度の単年度目標を達成見込み。

● 重点施策ごとに見ると、重点①、重点③、重点⑤、重点⑥については、目標を大幅に達成。これは、教育庁と連携し高校生等への予防啓発授業等を推進したほか、SNS相談「大阪依存症ほっとライン」など相談窓口の整備や民間団体等の活動支援の充実に取り組んだ成果と考えられる。

● 一方で、重点②にかかる「府民セミナー・シンポジウムの参加者数」については、僅かながら目標未達となった。これを踏まえ、条例で定める啓発月間でのシンポジウムの開催をはじめ、広く府民の間にギャンブル等依存症に関する正しい知識の普及と理解の促進を図る、普及啓発の取組みを強化していく必要がある。

（※）R5府実態調査結果 ▶ 『ギャンブル等依存が疑われる人等』の割合：3.9% [95%信頼区間：3.4-4.4]

『ギャンブル等依存症は病気であることを知っている』と回答した府民の割合：80.3%